



昭和35年国勢調査予想人口懸賞発表

1位は下妻市の下条真直さん

さきに昭和35年の国勢調査の実施に伴い、茨城県・いはらき新聞社の主催で、昭和35年国勢調査による本県の常住人口の予想を懸賞募集しましたが、応募総数 2,901 通の多きにのばりました。

審査は、12月8日に総理府統計局から発表された結果速報により、いはらき新聞社と県当局で厳正に行いました。その結果、公表された本県の人口概数 2,046,969 人に適中するものはありませんでしたので、この数に最も近い数を推定した、下妻市の下条真直さんが1位に決定し、賞金1万円が送られました。

下条さんは、今年67才、開拓農業に従事しておられますが、下妻市役所から配布されたチラシで懸賞募集を知り、奥さんと、息子さんと合わせて3枚応募した中、本人の分が1位に当選されたわけです。

下条さんは、本県の人口が昭和30年の国勢調査よりも減るという見通しについては、下条さんには、お子さんが5人あり、その中4人までが高校を出ると東京方面に就職しており、又近所でも東京方面に出て行く人が多いところから、本県の人口は必ず減つていると考えられたそうです。

入 賞 者 一 覧 表

順位	応募人口数	氏 名	住 所	職 業	年令	本県の人口数との差
1	2,049,803	下 条 真 直	下妻市半谷	農 業	67	2,834人
2	2,051,539	堀 口 いづみ	常陸太田市島町2413	無 職		4,570
2	2,041,565	富 田 広 市	西茨城郡七会村大字徳蔵	農 業	37	5,404
3	2,052,446	須 藤 照	那珂郡東海村大字村松	農 業	41	5,477
3	2,053,428	堀 井 洋 子	行方郡麻生町大字麻生134の1	学 生	16	6,459
3	2,053,727	遠 藤 幸 一	猿島郡総和村駒羽根	農 業		6,758
3	2,053,865	黒 沢 和 子	笠間市上加賀田			6,896
4	2,054,200	田 中 はつ江	新治郡八郷町小屋			7,231
4	2,054,793	佐々木 浪 江	筑波郡谷田部町鍋沼新田	雑 貨 商	35	7,824
4	2,054,845	飯 塚 光 枝	下妻市筑波島	農 業	18	7,876
4	2,039,058	福 城 和 子	西茨城郡友部町中央病院寄宿舍			7,911
4	2,054,950	篠 崎 英三郎	下妻市横根			7,981
4	2,055,464	富 田 正	笠間市本戸1005	電々社員	29	8,495
4	2,035,137	塚 本 健 司	東茨城郡小川町小川1618	農 業	45	11,832
4	2,058,921	高 田 敬 子	西茨城郡友部町中央病院寄宿舍			11,952

懸 賞 応 募 状 況

応募推定人口数	は が き 枚 数	応募推定人口数	は が き 枚 数
0~2,020,000人	29枚	2,090,000	507
2,030,000	3	2,100,000以上	269
2,040,000	2	計	2,856
2,050,000	17		
2,060,000	156	氏名及び人口数の記入されていないもの	5
2,070,000	804	締切期日後到着のもの	40
2,080,000	1,069	総 計	2,901

第11回茨城県統計図表展入選者

第1部 (小学校1年～3年)

1位	8月のおんどしらべ	結城市立江川北小学校3年	岩崎 一
2位	てんきしらべ	結城市立結城小学校1年	早坂 孝範
//	オンドしらべ	水戸市立石川小学校2年	関口 修一
3位	うちの前をとおつた人とのりもの	結城市立結城小学校2年	信未 善男・浦里 延明
//	おとうさんのおしごとしらべ	結城市立絹川小学校1年	岩崎 三夫・宮田 靖子
//	3分間にできた数	結城市立江川南小学校3年	瀬畑志津枝
佳作	きれいなやさしいしらべ	結城市立結城小学校2年	飯塚 博子・中沢みちの
//	毎月とつているごつししらべ	結城市立結城小学校2年	小河原俊弘・柏木 一浩
//	えいせいけんさ	結城市立結城小学校2年	大崎 百代・大橋 和子

第2部 (小学校年4～6年)

1位	私の家で作った紬はどこに行くか	結城市立結城小学校6年	藤貫ひさえ
2位	私達の身長	土浦市立土浦第二小学校6年	三芳 浩子・中西よし江
//	どのくらい本をよんだか	結城市立江川南小学校5年	大島三代子
3位	城両小給食の栄養しらべ	結城市立城南小学校5年	菊地 節子
//	4年間の陽転者しらべ	結城市立山川小学校4年	須藤 俊明・湯本 陽一
//	寄生虫保卵者数	結城市立江川南小学校5年	山中 真弓
佳作	私達の胸囲	土浦市立土浦第二小学校6年	長沼 明・野木 清司
//	立之山地区の1日の交通量しらべ	結城市立城南小学校4年	菅井 裕子
//	幻灯スライド調べ	結城市立江川南小学校5年	船橋 時子

第3部 (中学校)

1位	古河市の洋傘	古河市立古河第二中学校2年	後藤 賢司・長浜 路雄
2位	激増する交通事故	古河市立古河第二中学校3年	猿山 芳枝
//	茨城県の農業経営	小倉 清子	遠井茂・荒木純一・鈴木洋
3位	古河市の青果	結城市立江川中学校2年	関口 玲子・湯田 純子
//	茨城の住宅状況	古河市立古河第二中学校2年	瀬嶋 忠勝・鈴木 和夫
//	茨城の生活保護状況	結城市立江川中学校3年	池田 広子・森岡かつ子
佳作	恐るべき火災	結城市立江川中学校3年	渡辺桂子・古沢節子・赤祖文睦子
//	テレビはこんなにふえている	古河市立古河第二中学校2年	江原香代子・藤田恵子・小林友子
//	県と市の産業別所得の比較	古河市立古河第二中学校3年	2年 中田 礼子・飯田迪子・吉沢道子
//	市内中学生の生徒数はどうなるか	結城市立上山川中学校3年	広井 キミ
//		結城市立江川中学校2年	染谷 昌代・小谷野成子

第4部 (高等学校) 応募作品なし

第5部 (一般)

佳作	茨城県の葉たばこ	日本専売公社水戸地方局	砂川 満男
//	たばこの製造高	//	鈴木 皓允



統計の断面 (其の1)

一本杉 清

— 平均値について —

Aは、1斗の米を1升120円で購入した。Bは5升の米を1升100円、Cは1升を単価80円、Dは3升を単価140円で購入したとすると、この4人の購入した米の平均単価は、いくらになるのだろうか。

これを単に、各単価の平均値をとれば

$(120円 + 100円 + 80円 + 140円) \div 4 = 110.0(円)$ である。しかし各単価にウェイトを持たせた算術平均いわゆる加重算術平均値は、

$$M = \frac{\sum FX}{\sum F} = \frac{\sum FX}{N}$$

から求められる。Xは単価であり、Fは度数である。即ち

り、Fは度数である。即ち

$$M = \frac{\sum FX}{N} = \frac{120円 \times 10 + 100円 \times 5 + 80円 \times 1 + 140円 \times 3}{10 + 5 + 1 + 3} = 115.8 (円)$$

となる。然し平均値といえば、必ず加重算術平均とは限らないであろう。故にここに幾何平均になるものを持ち出すのである。上記米の購入の例について幾何平均値を計算してみる。

$$G (\text{幾何平均}) = \frac{\sum F}{\sqrt[N]{\prod X^F}} = \frac{N}{\sqrt[N]{\prod X^F}}$$

この式を対数表を利用して簡単に計算するため次のように変形して、

$$\log G = \frac{1}{N} (\log X_1 + \log X_2 + \dots + \log X_N) = \frac{1}{N} \sum \log X$$

となるから

対数表より

$$140 = 2.1461$$

$$120 = 2.0792$$

$$100 = 2.0000$$

$$80 = 1.9031$$

$$\therefore \log G = \frac{1}{19} (2.1461 \times 3 + 2.0792 \times 10 + 2.0000 \times 5 + 1.9031 \times 1) = 2.0697$$

$$2.0697 \text{ を真数にもとじて } 114.7(円)$$

次には、調和平均値は、いくらになるだろうか。

$$H (\text{調和平均}) = \frac{1}{\frac{1}{N} \left(\frac{1}{X_1} + \frac{1}{X_2} + \dots + \frac{1}{X_N} \right)} =$$

$$\frac{N}{\sum \left(\frac{1}{X} \right)}$$

この式に実数を入れると

$$H = \frac{19}{\frac{1}{140} \times 3 + \frac{1}{120} \times 10 + \frac{1}{100} \times 5 + \frac{1}{80} \times 1} =$$

107.2(円)となる。

更に平方平均なるものがある。

平方平均値は、

$$R = \sqrt{\frac{1}{N} (X_1^2 + X_2^2 + \dots + X_N^2)}$$

の式で求められるから、

$$R = \sqrt{\frac{1}{19} (140^2 \times 3 + 120^2 \times 10 + 100^2 \times 5 + 80^2 \times 1)} = \sqrt{13,642} = 116.8 (円)$$

以上にあげた諸平均値の概念とは、若干異なるが、その同類として中位数とか、並数がある。中位数には更にその同一系列に四分位数とか十分位数などがあるが、ここでは、平均値を問題にしているのだから、中位数および並数のみを他の平均値同様に計算してみたい。

まず中位数についてであるが、各変量を大小の順にならべて、全変量を二等分する項の量が、中位数 (Median or Me) である。さきにあげた米の購入例から、階層区分すると単価80円は、70円以上90円未満。単価100円は90円以上110円未満、単価120円は110円以上130円未満同様に単価140円は130円以上150円未満とするとこの度数分布表を作れば、次のような表が作成されるわけである。

代表値	階層区分	度数
80	70円以上～90円未満	1
100	90～110	5
120	110～130	10
140	130～150	3

$$Me (\text{中位数}) = X' + C \left(\frac{\frac{N}{2} - F}{f} \right)$$

この式において

X'…中位数の所在する下限界値、総度数を2等分した項数 $(19 + 1) / 2 = 10$ は、(80円階層の度数1) + (100円階層の度数5) より大であつて、この数(1 + 5)

に次の階層(120円)の度数(10)を加えたものよりも小さいから、120円階層が中位数の所在階層であり、この下限界値は、110円である、即ち $X' = 110$ 円とする。

C...階層区分の間隔、この例では20円である。

N...総度数19である。

F... X' 以下の総度数6

f...中位数を含んでいる階層の度数10

従つて上式に実数をあてはめて、メヂアンを計算すると

$$M_0 = 110 + 20 \left(\frac{19 - 6}{2 \cdot 10} \right) = 117.0(\text{円}) \text{となる。}$$

次には並数であるが、並数とは、階層区分した場合、最大度数に対する変量であり、分布曲線に対する頂点の値である。

この並数(Mode or M_0)には、並数のある級の級間隔を、両隣の階層の度数の反比に、比例配分する方法と もう一つは、並数のある級の級間隔を、その度数と両隣の階層の度数との差の比に配分する方法とがある。ここでは、そのうち後者の式を使つて前記の米の例について並数を計算すると

$$M_0(\text{並数}) = X' + C \left\{ \frac{f_0 - f_{-1}}{(f_0 - f_{-1}) + (f_0 - f_{+1})} \right\}$$

この式において

X' ...並数所在階層の下限界値つまり度数分布で最大度数のある階層区分の下限界値である。この例では最大度数は10(米1斗)であるから、この階層の下限界値は110(円)である。

C...階層区分間隔をいう、この例では20(円)

f_0 ...並数所在階層の度数即ち最大度数10

f_{-1} ... f_0 の一つ前の階層の度数5

f_{+1} ... f_0 の一つあとの階層の度数3

以上をモード計算の式に代入すると

$$M_0 = 110 + 20 \left\{ \frac{10 - 5}{(10 - 5) + (10 - 3)} \right\} = 118.3(\text{円})$$

以上計算したごとく、一つの設定された問題に対して、その計算結果は、いくつにも別れてくる、どの方法によつて結論を出すかということは、単に平均値ばかりでなく、すべての問題について共通する事項であるが、統計にとつては、最も重要な問題の一つである。適切な計算方法はまた統計解析上必須要件となつてくるのは、当然である。一つの計算方法によつて、ある結果を誘導したならば、その結果を適否判断の材料として吟味しなければならない理由もここに存する。

さて平均値の問題にかえり、平均値について、幾つかの方法がある以上、どの方法によつて求むべきかという平均値選択の規準を考えなければならない。

Yuleはこの件について、次のような六つの点を指摘し

ている。

1. 明瞭な定義、計算者の推定不要
2. 全変量の値について計算
3. 計算容易
4. 標本誤差の少ないこと
5. 計算方法の性質が、理解容易
6. 代数的取扱容易

このような六つの規準を上げている。

個々の計算方法についてみると、算術平均では、各変量と、算術平均値との偏差の総和は、常に0であるという特徴があり、かつ現実的に最も利用されている方法であり、通常平均値といへば、この方法を指している。

幾何平均は、比率を平均する方法としては、最も合理的であり、調和平均は、逆数の形をもつ変量を平均する場合に最も用いられ、平方平均は、平均からの偏差の大小を平均する場合に最も合理的である。

中位数は、変量中の極端な数値による影響が少ない方法であり、並数は最大度数の値または、度数曲線の頂点の値であるが、複雑な方法で通常は利用されない。しかし平均値の各方法の間には、何らの関係もないであろうか。すでに計算した値を比較して、その大小関係をみると、数学的平均値としては

算術平均(M) = 115.8円

幾何平均(G) = 114.7円

調和平均(H) = 107.2円

平方平均(R) = 116.8円

であるから、常に次の大小関係があることが解る。即ち

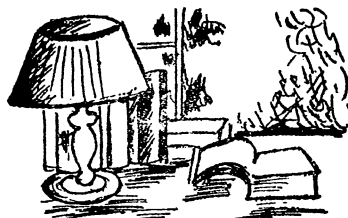
$$R > M > G > H$$

また位置の平均値としては、

中位数 $M_e = 117.0$ 円

並数 $M_0 = 118.3$ 円 ここにも $M_0 > M_e > M$ が成り立っている。

平均値計算についても、単に数式の遊戯をするのではなく、その目的を理解し、最も適切な方法を選択するための努力を、常に惜しんではならない。(続)



農林業センサスの臨時集計員として

水戸高等簿記学校生徒一同

これは1960年世界農林業センサスの県集計のために、臨時集計員として、昭和35年9月1日から2カ月間にわたって本県統計課に勤務した、水戸高等簿記学校生徒から寄せられた手記である。
センサスの結果もぼつぼつ発表されている折柄、思い出のために掲載しておこう。

私達2カ月間の臨時集計員として無事任務を果たしたここにペンを執らせていただきます。統計というものが今まで私達が考えていたような安易なものでなく、実に細かく神経を使うものだという事を、実際に味わった私達18名、ひとつの仕事が無事終わってほっとしました。

9月になると、各地から学友たちが母校へと帰って参りました。

強烈な陽ざしを受けてまぶしく光る夏雲の下に、私達の夏休みは終りを告げました。焼きつくような日光を全身に浴び、波しぶきの中に遊び疲れ、或いは、濃緑の衣裳を纏った夏山の奥深く入って、静かな大気を胸一杯吸い、楽しく過ぎてしまった夏休みの、いろいろな思い出を、淋しく鳴き続ける蟬の音が、呼び起こしてくれま

す。「センサスの臨時集計員として県統計課に行くように」との話が、夏休みの幻想の中に深く沈んだ私の心を現実の世界に引き戻しました。センサス?とにかく大切な調査に違いありません。そして臨時集計員、私たちの日頃の勉強が、どの程度応用されるのでしょうか。霧深い未知の世界へ踏み込むような、莫然とした一まつ不安に似た感情が私の脳裡をかすめました。県庁といえは深い壕を巡らしたいかめしい建物が先ず思い出されます。そして地方公共団体としての行政機関に違いありませんが、どんな仕事をするのか、具体的には考えたこともありませんでした。それが今突然に私たちの真正面に大きく立ちはだかつて参りました。

私達を待ち受けていた書類、正確には、1960年世界農林業センサスの市町村別農家調査結果表及び林業調査結果表でした。このぼう大な書類をどのように集計するのでしょうか。数名の僅かな県の係員と、統計事務に始めての私たち18名とによつて各表1枚ごとに検算、審査、修正、県計への集計と所定の事務計画に従つて次々と作業が進められてゆきました。

思えばいろいろの事がありました。シーンと沈みかえつた室の中、パチパチという音だけがして、誰もが緊張していたあの最後の4、5日が思い出されます。又疲労の入りまじつた顔で、しかし誰もが不平をいうわけでもなく、与えられた任務を果たす為、黙々とペンを走らせていた日々。教室の中とはおよそ勝手の違つた室の隅々まで積まれている帳簿、それを見た時、これからの仕事に対する不安と、自分達が少しでも役に立たねばという考えで室の中へ入つたのでした。ただこれからは一生懸命やらねばそれだけを頭において……仕事始めの日記にこの様な事が書いてありました。「アルバイトとはいえ初仕事ともなれば緊張します。こわそうな人ばかりが並んでいて、いやな所と想像していたことも室に入るなり

吹き飛んでしまいました……。」そうです。教室の中の空気しか知らなかつた私達ですの、およそ県庁という所を恐れていたのかも知れません。でも私達の職場はあたたかい気持ちでこんな私達を迎えて下さいました。仕事面においても親切に御指導下さつたおかげで、何の不安も間違いもなく、無事に大役を果たす事が出来ました。

私達にとっては生きた勉強、教室内では学ぶ事の出来ない事を身を持って味わいました。私達の仕事は各町村から来る結果表の間違いをなおして転記、そして計算清書です。このようにして1冊が出来上がるまで何人の人の手を通るか知れません。計算が合わずに涙を流した事すら有りました。又その反面、喜びというものも忘れることが出来ません。

あのように自由に仕事が出来たという事は、今まで経験した事が有りませんでした。特に感じたことを申しますと、先ず数字の記入について、如何に注意しなければならないかということが痛切に感ぜられました。学校では数字は行間2分の1ないし3分の2とか、ピリオドとかカンマの打ち方などの注意もさりげなく聞いておりましたが、県に提出されて来た書類を集計してゆく上に、数字・単位の不明瞭により集計不能になることがしばしばありました。その都度県の係の方の指示を受けるのですが、正確明瞭に表示された書類と、そうでない書類とを比較するとき、如何に数字記入などの基本的なことが大切であるかを痛感いたしました。次には、統計は行政の基礎資料を作るので、期間を限定し、鮮度の高い統計を作るのだそうですが、そのため一カ所でも、未提出の書類があつたり、又は作業の進行が遅れたりするとそれが、全体の集計作業に大きく影響していることでした。私たちは、ただ一生けんめい指示された集計を迅速に、そして正確と心掛けながら忙しく過ごして参りました。

私達もまだ学生的身で与えられた問題は数多くあります。それら一つずつ片付けて行くのが今の私達の仕事なのです。アルバイトが終つて早や何日かが過ぎていきます。時の流れと共に成長して行く私達、今と変わらず正確に自分の物とするようつとめます。仕事によつて、一つの与えられた物に対する責任感という事が、いかに大切であるかと言う事。あの数多くの資料が1冊の本として出来るように、私達の今の勉強に対しても責任を持ち最後まで立派に果たすよう頑張りたいと思います。最後に皆様の御健康と御多幸とをお祈りいたします。

忙しく過ぎた集計員としての日々を、静かに追憶しつつ……。

新市町村の横顔

行方郡 北浦村



真家村長

1. 概況
本村は茨城県の東南部にあり東は北浦に面し、北は鹿島郡鉾田町に、西は行方郡玉造町、南は同郡麻生町に接する純農村である。旧津澄村と要村、武田村の3カ村が、昭和30年4月1日に合併して、東西8.4km、南北9.2km、面積58.49km²の北浦村が出来上った。新村名は、村民から懸賞募集され、地理的に名の通った北浦が採用された。

村の東側に横たわる北浦は、周囲87.4km、面積38.7km²の帯状の湖で、その幅は最も広いところで4kmに満たず、浪逆浦の北に連なる内海であるところから北浦といわれるようになったという。

役場新庁舎は合併の翌年9月に建設され、赤瓦白壁の1階建て、正面一続きの田を隔てて北浦を展望する。鉾田から佐原行の鹿島参宮に乗ると約25分でこの役場前に着く。これは県道だが霧とけ道でありよくない。

昨年の国勢調査によると、村の世帯数は2,223、人口は12,400人(男5,879人、女6,521人)で、ここも昭和30年の国勢調査時より471人減少している。人口密度は県下では低い方である。

2. 産 業

農林業センサスの結果によると村の農家数は1,903戸で、これは全世帯数の85.6%にあたる。経営耕地面積は1~1.5町の農家が516戸で最も多い。村の地勢はおおむね平坦で海拔の平均30m程度、北浦に面して水田があり中央部に山林が散在する。前記調査では田が866ヘクタール、樹園地42ヘクタール、畑1,529ヘクタールと畑が多く、保有山林は1,238ヘクタール、林家数1,101戸である。

主要農産物は、米のほか畑作では冬がなたね、夏がかんしよ、落花生となつている。昭和34年の実収高は、なたね744,471kg(これは鉾田町に次いで多い)かんしよ12,250,507kg、落花生771,477kgで、共に県下有数の産地である。特に落花生は、最近千葉県から行方郡に産地が移りつつある。その外、山田、吉川の湖岸部落で、蔬菜園芸が盛んである。ビニールハウス、電熱温床によるトマト、キュウリの促成栽培で、ハウスは現在3,465m²、大型トンネルは11,550m²ある。トマトは水郷トマトとして東京へ出荷されており、この蔬菜園芸栽培を視察に訪れる者は多い。又ここではハス(約12ヘクタール)も栽

培する。

北浦を控えているので、ここでの内水面漁業は盛んである。兼業ではあるが、漁家が65戸あり、いさごの240トンをはじめとして、えび、しらうおなど総計372トンの漁獲がある。

畜産に移ろう。この村の将来の発展方向は、地理的条件からいつでも農業以外に道はないと思われるので、村当局も、主穀畜産農業経営方式といったものを将来図に描いている。農産物を家畜の腹を通して再収穫しようというやり方である。農林業センサスでは、乳用牛142頭、役肉用牛1,053頭、豚1,329頭を飼養していることになっているが、最近はその数はいくつと多いのではないだろうか。集乳所は村内に5カ所あり、常南酪農協組により共同出荷している。

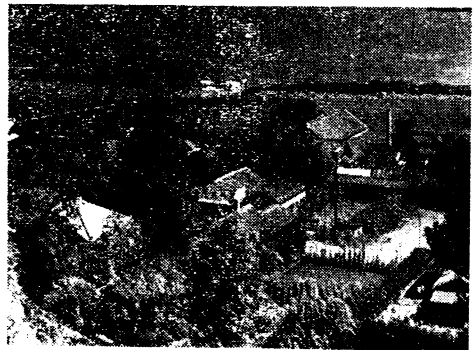
消費生活は交通の関係から石岡、佐原、土浦の商業圏に属しているそうである。

3. 教育文化

最近の村の重点事業は教育面1本に絞られた感がある。昭和35年の当初予算が71,917千円という規模のこの村で、33年から始まった統合中学校の建設は3期工事で8千万円を投じたというから、その熱の入れ方が分ろうというもの。統合中学校の設置は郡下では初めてのもので、敷地4ヘクタール、校舎約3,000m²、鉄筋2階建ての立派なもの。理科実験室などは専門学校程度に完備されている。来年度は1,200万円で体育館を作るそうだ。

このように教育に関心の深いのは、村から出ている教育者関係が多いためかも知れない。中学生の高校への進学は、昨年度で38.2%、鉾田が多く、麻生へも若干通う。又好景気を反映して県外への就職は28.6%と多かつた。

合併後、産業開発のための道路の新設改良など、各方面に新村建設のつちが振られたが、土地改良、耕地整理などは未だ手をつけていない。農業収入平均40万円といわれるこの豊かな村は、まだ前途洋々たるものがある。村内の武田川でのわかさぎ釣り、北浦での寒ブナ釣りなど釣師の多く訪れるこの平和郷の多幸を祈っておこう。



北浦をのぞむ



随筆

牛年に寄せて

小野瀬二郎

散策の動機などについてはすでに忘れてしまつたが、川原ぞいの土手の陽炎の中に草を食む牛の点景が、2匹3匹或は数匹と纏つた自然の配置を作つていたことを思い出す。

この牛が時々啼く、時に私の散策の静寂気分を破られるようなことがないでもないが、決して腹のたつをおぼえなかつた。牛の啼き声にはなにか太古そのままの調律が含まれていて、実に悠長なものだ。牛という動物そのものからこうした感じをうけることが今でもたまたまある。ことに日向で反嚮をしているところなどみるとその感が強い。

そもそも牛という動物は、犬と共に家畜としては非常に古い動物で、紀元前3,000年頃のエジプトの彫刻には、牛と人類と密接な体係のあつたようなものが残されているそうである。またギリシヤの古代の貨幣の中にも牛が彫刻されたものが同様残されており、これはそれ以前の社会の財産の唯一のものが牛であつた時代の牛の貨幣的価値の表現であるとみてよいだろう。

日本で古い牛の話では大國主命が大勢の人夫を使役されて田を作られた時に、その人夫をねぎらうために、牛の肉をふるまつた話が伝えられている。古くから日本でも家畜として我々の祖先等と密接な存在を続けて来たことは確かであるが、仏教が入つてくると共に印度の牧牛を非常に神聖なりという考えが入つて来て、「牛に引かれて善光寺参り」などと大衆の間に家畜以上のものとしてその心にとけこんでいつた。

印度の仏教徒は、牛を神聖視して決して牛肉を食わなかつた。また、回教徒は豚を神聖視して殺さなかつたことも耳にしたことを記憶している。やがて両教徒の争が起ると牛と豚を殺し合つて、たがいに反対の寺院に投げ込むなどという、妙な争いが起つたそうだ。こうした家畜こそ全く犠牲性というものだろう。

形から牛をみると、西洋種は全体の張が矩形の中に入るような形で、口の先から尻の先までが水平に一直線になつているが、日本種になると牛の頭が、馬の首のようにややあがつていて、首のつけ根が太く肩のところが盛りあがり尻の方が水平になつている。——と聞かされているが、このへんのくわしいことは私は知らない。

ところでいまここに牛族の年を迎えたのであるが、いつも黙々として働いて牛は一言に「のろま」の代名詞のようにわれわれは考え勝ちである。

まず、闘牛といえばスペインと頭からきめているが、少なくとも牛が人間相手に闘うことは本望ではあるまい。本来の闘牛の姿からすれば仲間同士の牛と牛とがその全力を挙げて勝敗を決することにあるであろう。ここにこそ闘牛の真の生命が存するのである。恐らく闘牛となるための基本教育的なものは、なまやしいものではないであろう。なぜなら「将来性」薄しと見破られれば、もう最期であることを想像するからである。疲れても前へ進む——前進前進、ただ押しの一手というところだろう。いかに闘牛であつてみても、朝な夕な飼育に余念のない主人公に対しては、親愛の情を燃やし、体の一部をペロリとなめることもあるであろうが、化粧まわしを身につけて大観衆を前に一度び土俵にあがれば、「ころんでも」「押されても」「刃物のようにとぎすまされた角で突かれても」あくまで戦い抜く。その痛みにたえて頑張り抜くことは苦しいであろう。立派な闘牛になろうと志を立てたからには、あくまでも頑張り抜かなくてはならないのである。

牛の中にも、いわば女王に位するホルシユタインという乳牛がある。女王といわれるだけに、毎日の生活もきちんとしているようである。朝の5時牧場は眠りからさめ、まず朝の食事、舎内外の掃除、次いで搾乳ということになるか。一夜のうちにたつぷりとたまつた乳を、気持よさそうに目を細くして搾つて貰っている姿は、まさにほほえましいものである。午前中はブラシで全身摩擦——11時に昼食、1時に搾乳、夕食は5時から6時、3回目の搾乳が8時～9時。かような連続によつてなんと1日20～40kg、1年に7,500～12,000kgもの生産を挙げるとだそう。まさに生産の1年である。

一面にはこんな生活もある。さんさんたる陽光を全身にうけて農耕にいそしみ、或時はぬれぬずみとなつて泥土と闘ういわば農家の大黒柱的な存在となつて、農夫と野良に出でて働く役牛の姿——日々の労働に生きがいを感じ、持てる力をだし惜しみなく十二分に發揮して前進また前進する——も忘れてはなるまい。でも最近農家の機械化の進展によつて、田や畑にかり出されることも比較的少なくなつたことは事実であろう。

そうこうのんびりしているうちはよいが、やがて東京芝浦屠場行きとなるとこれは全くたいへんである。俗に若き男女のあこがれの「東京」も、牛にとつてはまさに
(次頁に続く)



お役所に設備投資を

丹 藤 一

公務員の給料が安いために、優秀な人材が集まらないのを考えて、東京都で試験期日を早くしたことが話題になったのは、昨年の夏ごろだったと思う。

昨年は総じて好景気による労働力の不足が訴えられて中小企業には思うように人が集まらなかった。給料の面で中小企業にも及ばない公務員が敬遠されたのは無理もない話である。

昨年の国勢調査の結果、人口の都市集中という現象が判明したが、東京に近い本県など、若い人にどんどん見捨てられて、5年間に人口は1万7千人近く減少した。

人が都市に集中する理由は色々あると思う。たとえば世帯の実収入をみると、全国を100とした実収入総額の格差は、東京が128.6、神奈川120.4、大坂117.5、愛知113.2、反対に本県は82.5である。(昭和34年全国消費実態調査)又同じく、消費支出の格差は、東京127.3、神奈川116.3、大坂117.2、そして本県は85.7となっている。

つまり、都市では金が多く取れて、またそれだけ多く使われていることを示している。多く取って、多く使うところには、自然派手な雰囲気は漂うだろう。そこへ行けばなんとかなると思うのは、必ずしも幻惑ばかりでなく、ひよつとすればひよつとなる可能性がそこには潜んでいる。寄らば大樹のかげというわけか。

これは家計の収支からみた1例だが、娯楽の面、文化の面でも都市は人を引き付ける。おかげで地方ではどんどん人が減って行く。

労働力が不足してくると、労働力の奪い合いとなり、人は少しでも良いサラリーの方へ流れて行くから、労働賃金は上ってくる。そうなると、給料が安くて、しかも地方にあるという、二重にインフイオリオなお役所に集まってくる人は一一東京都ならずとも、これは一考を要する問題である。もちろん一概にはいえないが、しかし世の中が好景気になればなる程、このすう勢は否定できないのではないかと思う。

(次頁から続く)

生き馬の目をぬくようなほんとうに物堅なところにちがいない。彼らにしてみれば、東京に行ったら合格であろうと不合格であるとを問わず、〃帰つたためしなし〃の悲しみの刻印によつて最期を封ずるのである。生命のある間に最善を尽し、そして死してまた万物の霊長たる人間のために貢献する牛の一生には、何かいい尽せぬものを覚えるのである。

そこで話をまた肉に転ずるが、牛肉も日本の牛の方が美味であるといわれている。その例として神戸牛の美味であることは、神戸が日本の産地の但馬を控えている関係から生れたものであろう。この但馬牛を大分に移して殖やしたのが、豊後牛であることも歴史の示すところである。この牛肉屋を東京で最も早く開かせたのが、豊後牛の産地大分出身の福沢先生であつたことも興味をそそ

戦後、地方自治の原則が確立されて、地方行政機関はその地方の発展に主導性を示すようになった。それは時代とともに歩むとともに、なお1歩進んで、その地方の将来図を常に描いていかなければならない立場であることは、誰もが承知している。

しかし、そのような職場に人が集まらないとしたら、果してその機関は、その地方をリードしていくことが出来るかどうか。もしかりに、公務員の給料が安いためにすぐれた人材が集まらないとしたら、その対策としてはまづ公務員の給料を上げるべきだろう。しかし、これは話が面倒になる。

そこで、地方行政機関が時代とマッチして、しかも時代をリードしてサービスを続けて行くために、もう一つの方法がある。それは自からに設備投資をすることだ。人手不足を生んだ最近の好景気は、ここ数年来続けられた設備投資による企業合理化の結果だといわれている。35年度に近代化、合理化のために投下された民間の設備投資額は2兆7、8千億円というほう大な金額であつた。そして、その最新の設備に応じたすぐれた人材を高いサラリーで集め、着々とその生産性を高めたことが、打続く好景気の大きな要因となつたわけだ。

現在、これら大企業に匹敵した設備投資を行つたお役所はまづないようである。統計の仕事を見ても、地方ではいぜんとしてそれは手工業である。この手工業で作られた統計が、機械で作られる統計と、どの程度打ち合えるだろうか。最近の実情をみると、自分の会社で必要な統計は、ほとんど自分の会社で作つている。セルフサービスである。ほう大な設備投資の成果がどんどんセルフサービスをする。

人手もない、機械もない徒手空けんでは、今の世の中は通用しない。誰もが良いと分つていることを、1日伸ばしに伸ばして行わないでいることは、進歩の格差を大きくするばかりである。

ぐ一事である。そしてその当時は、牛肉など食べる人はほとんどなかつたらしい。世は慶応から明治に変わろうとする頃、その数こそ少ないながら牛肉屋の門をたく場合、頬を舐めて「牡丹を」と小声でいつたもののだそう。或は私の記憶に誤りがあるかも知れないが、その点については速慮なく訂正していただきたい。いずれにしても今から考えたら隔世の感がある。その頃からみると牛の飼育法も大変進歩していることに驚くであろう。一一これを牛乳に對する需要に求めるならば、われわれが今日のような急増した需要の道の開けて未だ日の浅い日本としては、非常に躍進振りをを見せていることに……。

このへんで最後に、明治43年糶まつ廠の牛魂祭の祭文に「汝の角は皮は爪は悉く世の重宝なり、汝の肉は万物の霊長たる人間の血となり肉と化す、汝の死は徒然ならず」と、以つて牛の靈魂悽すべしである。